

# FQ-C70E 工事説明書

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けてください。  
なお、この工事説明書は、工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

## 安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は、△警告、△注意に区分しています。



この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

●イラスト(まんが)の横にある○マークは「禁止」、●マークは「指示」、△マークは「注意」を表しています。

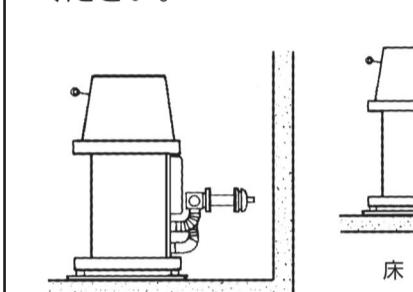
## △警告

★据付けや移設は、販売店または据付業者がおこなってください。  
お客様ご自身で据付けや移設をされ、不備があると感電や火災の原因になります。



禁上

★屋内給排気及び床下給排気禁止  
屋内または床下に排気すると、排ガスが室内に漏れて危険です。必ず屋外に排気してください。



禁上

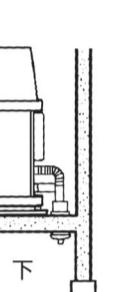
## △注意

★据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守っておこなってください。



指示

★給排気筒トップは閉そくしない場所に設置  
積雪の多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでやめください。



指示

★給排気筒を確実に接続  
給排気筒を確実に接続し、しっかりと固定してください。風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



指示

★次の場所には据付けない。  
火災や予想しない事故の原因になります。●温室、飼育室などのない場所。  
●付近に燃えやすいものがある場所。●水平でない場所、不安定な場所。  
●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所。  
●不安定な物をのせた棚などの下。  
●防火对策をしていないマントルピース。  
●可燃性ガスの発生する場所またはある場所。  
●特殊な壁(内部に通気層があるものなど)を使用している場所。  
●高地(標高1500m)以上では使用しないでください。酸素濃度が薄いので不完全燃焼します。標高1000~1500mの場所では再調整が必要です。  
裏面の「高地仕様への変更のしかた」を参照して、調整してください。



禁上

## △注意

●ストーブは、ストーブに附属された置台の上に据付けること。



距離

★油タンクとの距離を離す  
油タンクはストーブより2m以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。



距離

●屋外タンクでの使用を前提としており、附属のゴム製送油管の長さは1mです。屋内タンクを使用する場合は、別売のゴム製送油管(※11070915・長さ3m)をご使用ください。屋内用の据置式の油タンクは、不燃材の床上に据え付けること。

8396002080

E-18

## △注意

### ★ゴム製送油管の屋外使用禁止

ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。

ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

## 1 開こん

- 包装箱から製品を傷付けないように取り出し、包装材などを除いてください。
- 本機は重量がありますので取出しには注意してください。
- その他お使いになる前に製品の輸送中に生じた小ねじのゆるみやはずなどがないか調べてください。

## 附属品の確認

- 開こんが終りましたら、次の附属品がすべてそろっていることを確認してください。

置台	天板ガード	燃焼筒ふた	天蓋ガード
1個	1個	1個	1個
擬木	擬木案内	トレイ	オープン取手
3本	1個	1個	1個
壁固定金具	ゴム製送油管(1m)	ホースバンド(小)	
固定ねじ2個	木ねじ2本	タッピンねじ2本	
金属A2個	金属B2個		給油コックとストーブとの接続に使用してください。
OリングP39 4種C	OリングP39 4種C	排気用U形接手1個	給気口キャップ1個
バイボルダー1個	L形給手ホースエンド2個	給気ホース1個	排気筒ストッパー1個
		ホース4個	木ねじ4本(ルームマニホールド用)
			タッピンねじ2本
			天蓋ガード固定用

## 2 据付け

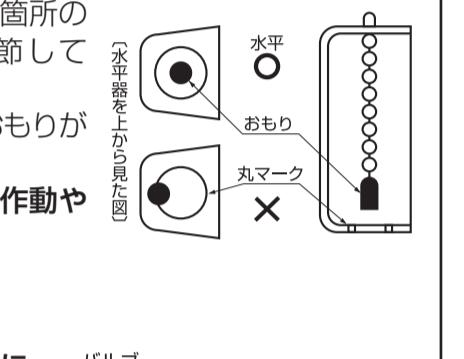
### 据付け場所の選定

- ストーブを据付ける床面は強い振動や衝撃がなく、ストーブの重量に充分耐え、安定していることが必要です。
- ストーブは水平になるように置いてください。ストーブが水平でないと、異常燃焼や対震自動消火装置の誤動作の原因になります。
- ストーブは冷気の入ってくる方向、例えば外気に接する窓の下、壁面に設置すると効果的です。ただし、人の通る所や、可燃物の近くには置かないでください。
- ストーブに物品が落下する可能性があるときは、落下の可能性のないように処置をしておいてください。
- 電流100Vのコンセントの位置を考慮してください。またコンセントは雨や水がかかり、ほのりの多い場所には設置しないでください。
- 直射日光の当たる場所や、温度の高い場所には設置しないでください。
- 理・美容院、メック、塗装工場、織維関係工場などスプレーや化学薬品を利用する場所及びほのりの多い場所では使用しないでください。また温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
- △警告、△注意の項をご確認ください。

### 据付け方法

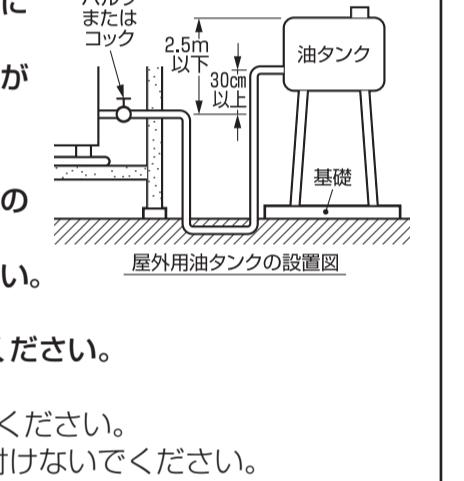
#### 置台の取付けと水平調節

- 置台の上にストーブを据えてからストーブ床面の4箇所の調節脚で水平器を見ながら水平になるように調節してください。
- 本体側面についている水平器を上から見て、水平器のおもりが丸いマークの範囲内にあるときが水平です。
- 傾斜した場所で使用すると、対震自動消火装置の誤動作や異常燃焼の原因となります。



#### 油タンクの組立てと据付け

- 油タンクの据付けについては、各地の火災予防条例に従ってください。
- 油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は2m以上離してください。
- △警告、△注意の項をご確認ください。
- 油タンクは、送油バルブ(油の出口)と本体の送油管との落差は30cm以上になるよう配置してください。
- オイルヘッド面との落差は最大2.5m以下にしてください。
- 室外設置の油タンクの場合は、右図の落差をとってください。
- 油タンクを組み立ててください。
- 油タンクは熱・振動・衝撃の少ない場所に設置してください。
- 床置式の油タンクは、曇・じゅうたんなどの上に据付けないでください。



## .....据付け方法

### 送油管の取付け

- 油タンクの送油バルブまたは、給油コックなどの油の出口とストーブの送油管に附屬または別売のゴム製送油管を差し込み、附属品のホースバンド(小)で締め付けてください。また、ゴム製送油管は点検しやすいように配慮して取り付けてください。
- ゴム製送油管の接続部のホースバンド(小)は締め付け不足や締め付けすぎに注意してください。
- 送油管の上に重量物がのつたり、折れ曲がったり、空気たまりができるような形状にならないようにご配慮ください。
- 規定の送油管以外は使用しないでください。
- ゴム製送油管は、油タンクを屋外に設置する場合は使用しないでください。
- 油タップを屋外に設置する場合は、金属製送油管(外径φ8mm)を使用してください。

お願い  
金属製送油管で配管する場合は、切断や加工時の切りくずや切り粉をきれいに取り除いてから配管してください。  
切りくずや切り粉が配管内に入りますと、ストーブの故障の原因になります。

●ゴム製送油管の取付けは、曲げ半径が小さかったりねじれたりするとゴム内部に応力が加わり短時間でヒビ割れなどが発生し油漏れの原因になります。曲げ半径は最低でも100mm以上になるよう、またねじれのないよう設置してください。

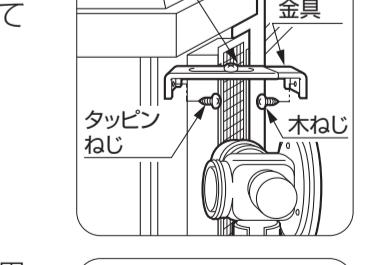
●ゴム製送油管は紫外線に当たると劣化が早くなります。できるだけ日光の当たらない場所を選んでください。

●ゴム製送油管は時間とともに劣化しますので定期的に点検してください。2年間に1度は新しい物に交換されることをおすすめします。

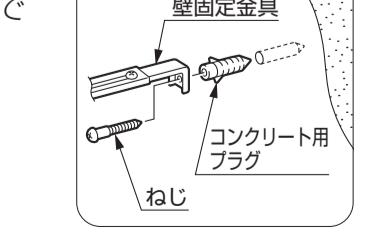
### ストーブの固定

ストーブの据付けが終りましたら、附属品の壁固定金具で本体を壁に固定してください。壁に固定できない場所での使用はおやめください。

① 木または厚い合板の壁に固定する場合は、附属品の壁固定金具と固定ねじと木ねじを使用して、壁に直接固定してください。

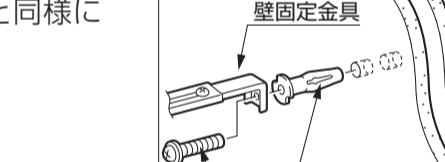


② モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込んでから、①頂と同様に壁固定金具で固定してください。

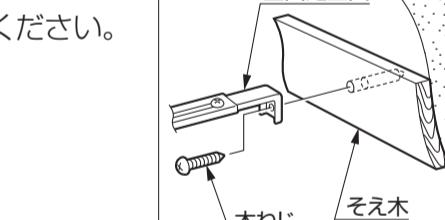


## .....据付け方法

### ③ 石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合は、中空壁用プラグを壁に打ち込んでから、①頂と同様に壁固定金具で固定してください。



### ④ 土壁、しつくい壁などに固定する場合は、壁にそえ木をしてから、①頂と同様に壁固定金具で固定してください。



### 記録

- 電源コードは傷付けたり、束ねたり、無理に曲げたりしないでください。また足でひっかけたり、重量物がのって破損しないようにご配慮ください。火災の原因になります。
- AC100V電源を使用してください。100V以外の電源を使うと、電気部品が故障したり、発火することがあります。コンセントは、雨や水のかからない場所に設置してください。またコンセントが傷んだり差し込みがゆるいときは使用しないでください。感電・ショート・発火の原因になります。

### ルームサーミスクの配線(移動)

- ストーブ背面のルームサーミスクを床面から1~1.5mの位置に取り付けてください。(リード線の有効長さは2.5mです。)
- ストーブの設置場所や周囲の状況によっては、お部屋の室温調整がうまくいかない場合があります。このような場合には、ルームサーミスクの位置を変更してください。
- リード線が、排気筒にぶれたり、踏んだり、引っかけたりしないように配慮してください。
- 付属品の木ねじで固定する場合は、木ねじを壁にねじ込んでからセンサーケース裏面の穴に木ねじの頭を通して取り付けてください。
- 木ねじを使用できない所では、市販の両面接着テープで壁や柱に貼付けてください。

### 部品の取付け

#### 擬木の取付け

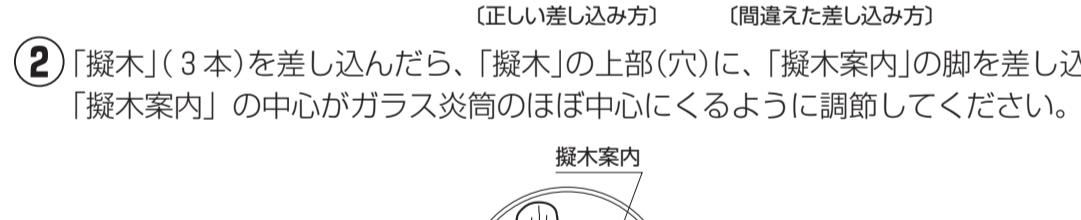
- このストーブ本体と同一梱包で附属品の擬木が3本入っていますから、それを取り出してガラス炎筒の中へ附属品の擬木案内を使用して右図のように取り付けてください。

## .....部品の取付け

### ① 「オープン」を開けて、「擬木」をバーナー内のブラケット(3箇所)に、向きを間違えないように、静かに差し込んでください。



### ② 「擬木」(3本)を差し込んだら、「擬木」の上部(穴)に、「擬木案内」の中心がガラス炎筒のほぼ中心にくるように調節してください。



### ③ 「天蓋ガード」を熱交換器上面に確実に装着してから、附属品のタッピンねじ(2本)で固定してください。



### 天板ガードの取付け

- このストーブ本体と同一梱包で「天板ガード」が入っておりますから、それを取り出して本体に取付けてください。
- ストーブをご使用になるときは、火災予防のため必ずこの「天板ガード」を取付けてからご使用ください。

### トレイの取付け

- 附属品のトレイを「オープン」室内に入れてお使いください。オープンの室内の温度は燃焼状態によって異なりますが目安として「強」火力(最大)で約180℃、「微少」火力(最小)で約100℃となりますので、お好みの温度になるように火力調節をしてお使いください。

### お願い

- 「オープン部」は高温になりますので、やけどには充分注意してください。

### ●燃焼中の「オープン」の取扱は高温になりますので、オープンの開閉は「オープン取手」をご利用ください。

- パッキンが均一になっていることを確認してください。

### ●取扱をしないときは、右サイドパネルの穴にかけておいてください。

## .....部品の取付け

### 3 給排気筒の取付け

- 使用する工事部品は、必ず本機の附属品及びトヨトミ純正別売品の給排気筒をご使用ください。

### 給排気筒の取出し場所の選定

- △警告、△注意の項をご確認ください。
- 給排気筒が閉そくされないよう積雪の多い地方では注意してください。排ガスを再度吸入で不完全燃焼を起こすことがあります。
- 給排気筒トップは高温になります。人通りの多い所や、可燃物がある所や、可燃性ガスの発生する所には取付けないでください。
- 植木や愛がん動物は給排気筒の

# FQ-C70E 給排気筒取付け型紙

**標準給排気筒の取付け**

壁固定金具穴位置

壁固定金具穴位置

●壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・ガス水道の配管を充分考慮してください。

●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものには使用できません。

●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものでは、別売部品を使用してください。

●給排気筒の取付け、本体の固定方法は、裏面の説明書を良くお読みください。

●設置場所を決めてください。

●給排気筒の穴あけ位置を決めてください。同時に壁固定金具の取付け位置のねじ穴にも印をつけてください。

(正面図)

●壁に給排気筒の穴(Φ70～Φ80)をあけてください。室内側から室外に向けて約2°の傾斜で下向きにあけてください。

**標準給排気筒の取付け**

●完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁内に入ることがありますので、充分注意してください。

●延長給排気工事の限界

●延長工事部品は、必ずトヨトミ純正部品を使用してください。

●給排気筒の長さは3m以下、曲がりは3箇所以下にしてください。

●標準給排気方式以外にもお部屋の条件によって、排気筒と給気ホースを延長して取付することができます。ただし延長限界は3m以下で曲がり3箇所以下です。

●やけど防止のため排気筒には、必ず断熱カバーを装着してください。

●壁や給気ホースに排気筒が接触しないように、パイプ支え金具で壁などに固定してください。

**集合煙突利用の禁止**

高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。

**給排気筒の再利用時の注意**

古い給排気筒は使用しないでください。必ず附属の給排気筒セットを使用してください。

**4 試運転**

試運転は、ご使用者と一緒に必ずおこなってください。

●取扱説明書「[15] 据付け、移設について」の「試運転」に従って、運転準備、運転、消火の手順の試運転をおこなってください。

●ストーブの据付け工事が終わったら、必ず試運転をおこない、使用者に運転方法はもちろのこと、日常の点検・手入れの方法、定期点検、故障・異常時の処理方法、連絡先等をお教え願います。

●同梱の「取扱説明書」、「保証書」と共に工事終了後はこの「工事説明書」をお客様にお渡し願います。

**5 廃棄するときの注意**

ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。  
リサイクルの支障となります。

●本体背面の排気筒外れ検知線(白色のリード線)をはずして、丸端子を給排気筒のチャンバー室にあるプラケットのタッピングねじを使用して固定します。

●排気筒外れ検知線を接続しないと、ストーブは燃焼できません。

●使用しないチャンバー室の給気口には、給気口キャップをかぶせておいてください。

●壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・ガス水道の配管を充分考慮してください。

●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものには使用できません。

●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものでは、別売部品を使用してください。

●給排気筒の取付け、本体の固定方法は、裏面の説明書を良くお読みください。

●設置場所を決めてください。

●給排気筒の穴あけ位置を決めてください。同時に壁固定金具の取付け位置のねじ穴にも印をつけてください。

(正面図)

●壁に給排気筒の穴(Φ70～Φ80)をあけてください。室内側から室外に向けて約2°の傾斜で下向きにあけてください。

**高地仕様への変更のしかた**

(標高1000～1500mの場所でご使用の場合)

- 運転停止中に「▽」「△」ボタンを同時に3秒押します。デジタル表示部が「1 E 」表示に変わります。(室内温度が表示されていることもありますが問題ありません。)
- デジタル表示部が「1 E 」表示中にタイマーボタンを3秒間押し続けます。ブザー音がしてデジタル表示部に「AL Hi」表示が3秒間点滅し、元の表示に戻ります。これで高地設定は完了です。一度設定をすれば電源プラグを抜いたり、停電があった場合でも高地設定は保持されます。

**可燃物との距離**

●可燃物との距離は下図に示す寸法以上離して設置してください。